

第61回定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

連結計算書類の連結注記表	1頁
計算書類の個別注記表	9頁

上記の事項につきましては、法令および当社定款第16条の規定に基づき、イ
ンターネット上の当社ウェブサイト (<https://ir.itfor.co.jp/>) に掲載すること
により、株主の皆様に提供しております。

株式会社アイティフォー

連 結 注 記 表

(連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項等)

1. 連結の範囲に関する事項

・連結子会社の数	5 社
連結子会社の名称	株式会社アイ・シー・アール 株式会社シー・ヴィ・シー 株式会社イーブ 株式会社スナッピー・コミュニケーションズ 株式会社グラス・ルーツ

株式会社シー・ヴィ・シーは、株式会社アイ・シー・アールの100%子会社であります。

株式会社イーブは2019年4月23日の株式取得に伴い、当連結会計年度より連結子会社となりました。

2. 持分法の適用に関する事項

・持分法を適用した関連会社の数	1 社
会社の名称	株式会社アイセル

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の決算期の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

(イ) 有価証券

満期保有目的の債券 債却原価法（定額法）によっております。

その他有価証券

・時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっております。

・時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

(ロ) たな卸資産

商品・貯蔵品

移動平均法に基づく原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっております。

仕掛け品	個別法に基づく原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっております。
(ハ) デリバティブ取引	時価法によっております。
(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法	
(イ) 有形固定資産 (リース資産を除く)	定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備・構築物については定額法）によっております。 なお、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間の均等償却をしております。
(ロ) 無形固定資産	
市場販売目的のソフトウェア	見込販売期間（3年以内）における見込販売数量に基づく償却額と販売可能な残存有効期間に基づく均等配分額を比較し、いずれか大きい額を計上しております。 社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。
自社利用目的のソフトウェア	
その他	定額法によっております。 なお、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間の均等償却をしております。
(3) 重要な引当金の計上基準	
(イ) 貸倒引当金	債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については、貸倒実績率による計算額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
(ロ) 賞与引当金	従業員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額基準に基づき計上しております。
(ハ) 役員退職慰労引当金	役員の退職慰労金の支払いに備えるため、内規に基づき当連結会計年度末における要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る負債の計上基準

- (イ) 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
- (ロ) 数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。
- (ハ) 一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

(イ) ソフトウェアの請負開発契約に係る収益の認識基準

- i. 当連結会計年度末まで 工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）に
の進捗部分について成 よっております。
果の確実性が認められ
るもの

- ii. その他のもの 工事完成基準（検収基準）によっております。

(ロ) ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

リース取引開始日に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

(イ) ヘッジ会計の方法

(ロ) ヘッジ手段とヘッジ対象

(ハ) ヘッジ方針

(二) ヘッジ有効性評価の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

なお、為替予約が付されている外貨建金銭債務については、振当処理を採用しております。

ヘッジ手段	ヘッジ対象
為替予約	外貨建買掛金
	外貨建未払金
	外貨建予定取引

当社の内部規程である「為替リスク管理規程」に基づき、為替変動リスクをヘッジしております。

ヘッジ手段の変動額の累計額とヘッジ対象の変動額の累計額を比較して有効性の評価を行っております。

なお、為替予約取引については、ヘッジ対象とヘッジ手段に関する重要な条件がほぼ同じであり、ヘッジに高い有効性があるとみなされるため、ヘッジの有効性の判定を省略しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

のれんは、発生年度より、その効果の及ぶ年数を実質的判断により見積り、その見積年数に基づく定額法により償却しております。

(8) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しております。

(9) 表示方法の変更

(連結貸借対照表)

該当事項はありません。

(連結損益計算書)

該当事項はありません。

(連結貸借対照表に関する注記)

有形固定資産の減価償却累計額

1,941,809千円

(連結株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首の株式数	当連結会計年度増加株式数	当連結会計年度減少株式数	当連結会計年度末の株式数
普通株式	29,430,000株	-株	-株	29,430,000株

2. 自己株式の種類及び数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首の株式数	当連結会計年度増加株式数	当連結会計年度減少株式数	当連結会計年度末の株式数
普通株式	1,992,003株	200,056株	44,700株	2,147,359株

(注) 増加200,056株のうち200,000株は会社法第165条第3項の規定による定款の定めに基づく取得、56株は単元未満株式買取であります。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額等

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2019年5月8日 取締役会	普通株式	549,009千円	20円00銭	2019年3月31日	2019年6月24日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期になるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2020年5月8日 取締役会	普通株式	利益剰余金	627,788千円	23円00銭	2020年3月31日	2020年6月22日

4. 当連結会計年度末における新株予約権に関する事項

・新株予約権の目的となる株式の種類及び数

2017年9月13日開催の取締役会決議によるストックオプション

普通株式 859,800株

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用については預金及び債券での運用を原則としており、債券での運用にあたっては、格付機関による格付を参考に安全性が高いと判断したもののみを対象としています。

デリバティブ取引は、外貨建取引の為替変動リスクを回避するために為替予約を行い、投機的な取引は行わない方針です。

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されています。当該リスクにつきましては、与信管理規程に基づき、顧客ごとの残高管理、期日管理等を行うとともに、定期的に顧客の信用状況を調査しています。

有価証券及び投資有価証券は、主に満期保有目的の債券及び取引先企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である買掛金は、原則として1年以内の支払期日です。営業債務は、流動性リスクに晒されていますが、毎月資金繰り計画を作成し管理しています。また、その一部には、商品の輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されていますが、デリバティブ取引（先物為替予約）を利用してヘッジしています。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替取引です。その取引については、業務執行委員会で承認を得た取引方針や社内規程に従い、経理部で取引を行い、取引の都度管理本部長に取引内容の報告を行うとともに、月次の取引実績及び取引残高について業務執行委員会に報告を行っております。なお、ヘッジ会計に関する、ヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の（連結計算書類作成のための基本となる重要な事項）に記載されている「重要なヘッジ会計の方法」をご覧ください。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2020年3月31日（当期の連結決算日）における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：千円）

	連結貸借対照表計上額（※）	時価（※）	差額
(1) 現金及び預金	3,250,367	3,250,367	—
(2) 受取手形及び売掛金	2,923,985	2,923,985	—
(3) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的有価証券	5,599,807	5,599,651	△156
その他有価証券	1,330,413	1,330,413	—
(4) 買掛金	(1,461,266)	(1,461,266)	—
(5) デリバティブ取引			
ヘッジ会計が適用されているもの	273	273	—

（※）負債で計上されているものについては、（ ）で示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金、受取手形及び売掛金、並びに買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は日本証券業協会が公表する売買統計参考値、信託受益権については取引金融機関から提示された価格によっております。

(3) デリバティブ取引

振当処理の対象となる為替予約に関する時価は、ヘッジ対象となる買掛金の時価に含めて記載しております。

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、ヘッジ会計の方法ごとの連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額は、次のとおりであります。

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等		時価	当該時価の算定方法
			うち1年超	1年以内		
為替予約等の振当処理	為替予約取引 賃建 米ドル	外貨建予定取引	26,786	—	273	先物為替相場によっている。
合計			26,786	—	273	—

(注) 2. 非上場株式（連結貸借対照表計上額71,543千円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

(1 株当たり情報に関する注記)

- | | |
|----------------|---------|
| 1. 1 株当たり純資産額 | 458円78銭 |
| 2. 1 株当たり当期純利益 | 44円98銭 |

(重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。

(その他の注記)

研究開発費の総額	53,816千円
----------	----------

個別注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

- 満期保有目的の債券
- 子会社及び関連会社株式
- その他有価証券
 - ・時価のあるもの
 - ・時価のないもの

償却原価法（定額法）によっております。
移動平均法による原価法によっております。

期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっております。
移動平均法による原価法によっております。

(2) たな卸資産

- 商品・貯蔵品

移動平均法に基づく原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっております。

個別法に基づく原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっております。

時価法によっております。

(3) デリバティブ取引

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

- （リース資産を除く）

定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備・構築物については定額法）によっております。

なお、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間の均等償却をしております。

(2) 無形固定資産

- 市場販売目的のソフトウェア

見込販売期間（3年以内）における見込販売数量に基づく償却額と販売可能な残存有効期間に基づく均等配分額を比較し、いずれか大きい額を計上しております。

社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

定額法によっております。

なお、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間の均等償却をしております。

- 自社利用目的のソフトウェア

- その他

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については、貸倒実績率による計算額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額基準に基づき計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

(イ) 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

(ロ) 数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

(4) 関係会社事業損失引当金

関係会社の事業の損失に備えるため、関係会社の財政状態等を勘案し、損失負担見込額を計上しております。

4. 重要な収益及び費用の計上基準

(1) ソフトウェアの請負開発契約に係る収益の認識基準

(イ) 当事業年度末までの進捗部分 工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）について成果の確実性が認められており、
られるもの

(ロ) その他のもの 工事完成基準（検収基準）によっております。

(2) ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

リース取引開始日に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

5. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

なお、為替予約が付されている外貨建金銭債務については、振当処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段	ヘッジ対象
為替予約	外貨建買掛金
	外貨建未払金
	外貨建予定取引

- (3) ヘッジ方針
- (4) ヘッジ有効性評価の方法

当社の内部規程である「為替リスク管理規程」に基づき、為替変動リスクをヘッジしております。
ヘッジ手段の変動額の累計額とヘッジ対象の変動額の累計額を比較して有効性の評価を行っております。
なお、為替予約取引については、ヘッジ対象とヘッジ手段に関する重要な条件がほぼ同じであり、ヘッジに高い有効性があるとみなされるため、ヘッジの有効性の判定を省略しております。

6. 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結計算書類における会計処理の方法と異なっております。

7. 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しております。

(貸借対照表に関する注記)

1. 有形固定資産の減価償却累計額	1,815,592千円
2. 関係会社に対する金銭債権債務	
短期金銭債権	14,539千円
長期金銭債権	51,000千円
短期金銭債務	123,507千円

(損益計算書に関する注記)

関係会社との取引高

売上高	46,930千円
売上原価	543,144千円
販売費及び一般管理費	22,119千円
営業取引以外の取引高	13,862千円

(株主資本等変動計算書に関する注記)

自己株式の種類及び数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首の株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末の株式数
普通株式	1,979,508株	200,056株	44,700株	2,134,864株

(注) 増加200,056株のうち、200,000株は会社法第165条第3項の規定による定款の定めに基づく取得、56株は単元未満株式買取であり、減少44,700株はストックオプションの権利行使によるものであります。

(税効果会計に関する注記)

1. 緑延税金資産の発生の主な原因

未払事業税	20,712千円
会員権評価損	10,938千円
事業用土地評価損	84,628千円
賞与引当金	99,331千円
退職給付引当金	60,731千円
長期未払金	17,036千円
投資有価証券評価損	57,985千円
関係会社株式評価損	68,096千円
減価償却超過額	12,741千円
その他	82,865千円
小計	515,067千円
評価性引当額	△235,856千円
緑延税金資産合計	279,211千円

2. 緑延税金負債の発生の主な原因

その他有価証券評価差額金	△97,554千円
緑延ヘッジ損益	△83千円
緑延税金負債合計	△97,638千円
緑延税金資産純額	181,572千円

(関連当事者との取引に関する注記)

1. 子会社及び関連会社等

属性	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
子会社	(株)スナッピー・コミュニケーションズ	所有 直接100.0%	役員の兼任 資金の援助 業務受託 外注先	管理業務受託 (注1)	240千円	その他流動資産	—
				出向負担金 (注1)	11,732千円	未払金	960千円
				外注 (注1)	100千円	買掛金	—
				資金の貸付 (注2)	—	関係会社長期貸付金 (注3)	19,000千円
				利息の受取 (注2)	304千円	その他流動資産	—
				管理業務受託 (注1)	840千円	その他流動資産	—
	(株)グラス・ルーツ	所有 直接45.0%	役員の兼任 資金の援助 業務委託	業務委託 (注1)	3,442千円	未 払 金	—
				貸付金の回収 (注2)	1,000千円	関係会社長期 貸付金	16,000千円
				利息の受取 (注2)	268千円	その他流動資産	4千円
				売上 (注1)	40,885千円	売掛金	14,016千円
関連会社	(株)アイ・シー・アール	所有 直接100.0%	役員の兼任 資金の援助 売上先 業務受託	出向負担金 (注1)	165,045千円	未払金	14,633千円
				人材派遣 (注1)	7,571千円	未払金	629千円
				貸付金の回収 (注2)	12,000千円	関係会社長期 貸付金	16,000千円
				雑収入	30千円	その他流動資産	—
				利息の受取 (注2)	259千円	その他流動資産	53千円
				売上 (注1)	2,455千円	売掛金	100千円
	(株)イープ	所有 直接100.0%	役員の兼任 売上先 外注先	売上 (注1)	1,730千円	売掛金	198千円
				外注 (注1)	126,662千円	買掛金	47,245千円
						未払金	14,586千円
				外注 (注1)	251,789千円	買掛金	45,454千円
関連会社	(株)アイセル	所有 直接24.9% 被所有 直接0.2%	役員の兼任 売上先 外注先	売上 (注1)	1,860千円	売掛金	165千円

取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

- (注) 1. 価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案し、価格交渉の上で決定しております。
- 2. 資金の貸付の金利については、市場金利を勘案して決定しております。
- 3. 関係会社長期貸付金に対して、当事業年度末における貸倒引当金残高は19,000千円であります。

2. 連結計算書類提出会社の役員

種類	会社等の名称 または氏名	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
役員	東川清	直接 (被所有) 1.33%	当社 代表取締役	新株予約権の 権利行使	12,840千円	—	—

(注) 2017年9月13日開催の取締役会決議に基づき、当社が付与した2017年度新株予約権の行使であります。

行使条件は、2017年9月13日開催の取締役会決議およびそれに基づき上記の者と契約した新株予約権割当契約書のとおりであります。

(1株当たり情報に関する注記)

- | | |
|---------------|---------|
| 1. 1株当たり純資産額 | 452円48銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 42円61銭 |

(重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。

(その他の注記)

- | | |
|----------|----------|
| 研究開発費の総額 | 53,816千円 |
|----------|----------|